

2023年FIA-F4選手権シリーズ
HFDP参加選手レポート
第3大会（第5戦／第6戦） 参戦レポート

8月5日（土）～6日（日）、富士スピードウェイ（静岡県）で2023年FIA-F4選手権シリーズ第3大会（第5戦、第6戦）が開催されました。HFDP（ホンダ・フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト）からは#5 三井優介（2002年04月21日生まれ。21歳）、#6 野村勇斗（2005年11月12日生まれ。17歳）、#7 森山冬星（2003年1月10日生まれ。20歳）の3人が参戦しました。

野村勇斗、2戦連続で予選ポールポジション&表彰台へ

■公式予選（10分間+10分間）：天候/晴れ 路面/ドライ



記録的な猛暑の中、富士スピードウェイでレースウィークが始まり木曜日、金曜日と練習走行が行われましたが、気温、路面温度とも想定以上の領域に上がってしまい、各選手ともなかなか自分の走りが出来ずタイムが伸び悩んでしまいました。

しかし苦しい走行の中で様々な試行錯誤を重ねて走りの幅を広げたこともあり、5日（月）朝は晴天ながら太陽が上がる前、気温が下がっているうちに始まった公式予選では各選手とも本来の走り

を取り戻して快調に走り始めました。

#5 三井は、最初の計測ラップとなった2周目から快調にトップタイムを記録し始めました。しかしタイヤのウォームアップを進めた他車はその後急速にタイムを上げ、#5 三井に迫り始めました。計測4周目、#5 三井が1分46秒445を記録した直後、コース上でアクシデントが発生、セッションは赤旗中断となりました。この段階で#5 三井はトップを守っており、#6 野村は16番手に沈んでいました。

セッションが午前8時06分に残り9分で再開すると、各車タイヤを温め直してアタックに入りました。ここで#6 野村が一気にペースを上げ1分46秒412を記録して#5 三井を逆転すると、次の周にタイムを1分46秒174にまで縮め、#5 三井を突き放しました。#5 三井はセッション再開後のタイム更新が出来ず、#6 野村がトップ、#5 三井が2番手でA組セッションは終了しました。第6戦のスターティンググリッドを決めるセカンドタイムも、トップが#6 野村、2番手が#5 三井の順でした。



A組セッション終了後、午前8時20分にB組セッションが始まりました。太陽が昇り、気温・路面温度が上昇する中でのアタック合戦となりました。計測が始まると、まず#36 小林利徠斗がトップに立ち、#7 森山がこれ

を追いかけるという展開となりました。

その後#3 中村仁がこれに割り込み、#7 森山も1分46秒617にまでタイムを縮めて対抗しましたが、セッション中盤には気温、路温が上昇してタイム更新が難しくなり、結局#7 森山は3番手でB組セッションを終えることになりました。セカンドタイムもB組3番手でした。

第5戦公式予選結果

予選A組1位 #6 野村 勇斗 1分46秒174 (1番手スタート)

予選A組2位 #5 三井 優介 1分46秒445 (3番手スタート)

予選B組3位 #7 森山 冬星 1分46秒617 (6番手スタート)

第6戦公式予選結果 (タイムアタックのセカンドタイム順に決定)

予選A組1位 #6 野村 勇斗 1分46秒412 (1番手スタート)

予選A組2位 #5 三井 優介 1分46秒546 (3番手スタート)

予選B組3位 #7 森山 冬星 1分46秒633 (6番手スタート)

■第5戦決勝レース（14周）：天候/晴れ 路面/ドライ



夏の太陽が照りつけ、気温、路温ともさらに上昇して、5日午後2時20分からの第5戦決勝レースは炎天下で始まりました。初のポールポジションからスタートした#6 野村は、2番手から攻め込んできた#36 小林を押さえ込もうと1コーナーでブレーキをロックさせ、アウト側に膨らみましたがなんとかコースにとどまり、2コーナーでは一旦#36 小林の先行を許したものの並走に持ち込み、コカ・コーラコーナーで押さえ込んで順位を入れ替え単独トップに立ちました。

一方3番手からスタートした#5 三井は1コーナーでインを#35 中村に奪われ4番手へポジションを落としてレースを始め、6番手スタートの#7 森山は1つポジションを上げて#5 三井の後に続きました。#5 三井は3番手のポジションを取り戻そうと激しくアタックしますが、最終コーナーで膨らんだところに#7 森山が飛び込み、わずかに先行されてストレートを駆け抜けようとしていました。ところがここでセーフティカーが介入しました。



レースは4周目からリスタートしましたが、再スタートでトップの#6 野村に後続の#35 中村、#36 小林が襲いかかり、コカ・コーラコーナーで#35 中村が、アドバンコーナーで#36 小林が#6 野村をかわして先行しました。こうして3番手に#6 野村、4番手に#7 森山、5番手に#5 三井が続くオーダーとなりましたが、5周目のダンロップコーナーで#5 三井は#88 荒川麟にかわされ、6番手へ後退しました。



トップに立った#35 中村と#36 小林が争っている間に#6 野村がこれに迫り、7周目には前方2台が格闘するスキを突いてトップに立ちました。しかし#36 小林、#35 中村も引かず、最終コーナーでは#36 小林が逆襲して先頭のポジションを#6 野村から奪い返しました。その後方では#5 三井が#88 荒川に攻め寄って5番手のポジションを取り返しました。

レース折り返し時点では#6 野村が2番手、#7 森山が4番手、#5 三井が5番手に続いて先頭集団を形成しました。緊迫した接近戦はレース後半も続き、#7 森山を攻め続けた#5 三井は13周目のダンロップコーナーのブレーキングでようやく#7 森山を攻略し順位を入れ替えて4番手に浮上しました。こうして14週のレースはフィニッシュを迎え、#6 野村は自己最高位（タイ）の2位でチェッカーフラッグを受け、#5 三井が4位、#7 森山が5位でレースを終えました。

【FIA-F4選手権シリーズ第5戦・レース結果】

#6 野村 勇斗 決勝2位 (27分40秒665 ベストタイム 1分47秒177)
#5 三井 優介 決勝4位 (27分45秒244 ベストタイム 1分47秒292)
#7 森山 冬星 決勝5位 (27分46秒234 ベストタイム 1分47秒476)

■第6戦決勝レース（14周）：天候/晴れ 路面/ドライ



6日曜日の富士スピードウェイは、それまでの猛暑から一転、午後には天候が悪化すると予報されていましたが、第6戦決勝レースが行われる朝はまだ太陽が照りつけており、レースはドライコンディションで始まりました。

午前8時05分、第6戦決勝がスタートすると、ポールポジションの#6 野村はうまく加速してトップのまま1コーナーへ飛び込みました。3番手スタートの#5 三井もポジションを守ってレースを始めましたが、コカ・コーラコーナーで後続の#35 中村にポジションを譲り4番手へ後退しました。

#6 野村はトップでオープニングラップを終えましたが、1コーナーで#36 小林が攻め込んで順位を入れ替え、その後方では4番手の#5 三井がポジションを取り戻そうと3番手の#35 中村に攻め寄る展開となりました。



4周目、#6 野村がダンロップコーナーで#35 中村にかわされたところでコース上の停止車両を排除するためセーフティカーが介入しました。この時点で#6 野村は3番手、#5 三井は4番手、#7 森山は7番手につけていました。

レースは8周目から再開されました。再スタートで野村は前を行く#35 中村とともに先頭の#36 小林をかわして2番手へ進出、#5 三井は順位を下げた#36 小林の背後につきました。9周目、#6 野村は1コーナー進入でインを#36 小林に奪われて3番手へ後退、4番手の#5 三井が#6 野村に攻めかかって、#36 小林、#6 野村、#7 三井が接近戦を始めました。その後方では7番手だった#7 森山が6番手へ抜け出しました。



#5 三井は#6 野村を激しく攻めましたがポジションを入れ替えるには至らず、結局順位が変わらないまま14週のレースは終わりチェッカーフラッグが振り下ろされました。#6 野村は3位を守り切り、#5 三井は僅差で4位、#7 森山は6位入賞を果たしました。

この結果、シーズポイントランキングでは2戦連続で表彰台に上がった#6 野村が2番手へ浮上、#5 三井は3番手、#7 森山は5番手へそれぞれポジションを下げました。

【FIA-F4選手権シリーズ第6戦・レース結果】

#6 野村 勇斗 決勝3位 (27分21秒051 ベストタイム 1分46秒900)
#5 三井 優介 決勝4位 (27分21秒256 ベストタイム 1分47秒046)
#7 森山 冬星 決勝6位 (27分23秒600 ベストタイム 1分47秒159)

■2023FIA-F4 選手権シリーズポイントドライバーランキング (2023 シーズン第6 戦終了時点)

2 番手 #6 野村 勇斗 81 点

3 番手 #5 三井 優介 74 点

5 番手 #7 森山 冬星 60 点

(1 位 25 点、2 位 18 点、3 位 15 点、4 位 12 点、5 位 10 点、6 位 8 点、7 位 6 点、8 位 4 点、9 位 2 点、10 位 1 点)

■2023FIA-F4 選手権シリーズポイントチームランキング (2023 シーズン第6 戦終了時点)

2 番手 HFDP 103 点

(各チーム最上位のみ計上)

●ドライバーズコメント : #5 HFDP RACING 三井優介



今年、一番苦勞したレースウィークでした。自分自身、走りに自信を持ってない部分がある状態でレースウィークが始まりました。予選ではある程度巻き返しましたが、トップ 3 とはクルマの戦闘力も自分の攻める走りという面でも 1 歩足りていませんでした。自分もちょっと 1 歩引いて戦ってしまったレースウィークだったと思います。反省点としては、速く走らせる走らせ方が安定して

いない、方法を明確化できていないという点があります。それなのに、まずクルマのセットを変えていこうとしてしまった。自分に自信を持って走れていないから、その心の揺らぎがこういう結果に繋がってしまったのかなと思います。自分をもっと信じて次のレースに臨もうと思っています。



●ドライバーズコメント : #6 HFDP RACING 野村 勇斗



2 戦ともポールポジションからのスタートということで、絶対優勝しようと狙ってたんですけど、やっぱり練習からの課題だったロングランの部分で負けてしまって 2 位と 3 位という結果になってしまい、本当に悔しいです。練習の時から新品タイヤでの 1 発は良い感じだったのに対しロングランで課題があり、そのままレースウィークを迎えたという

感じでした。レースになったらきついことは覚悟していたものの、自分でももう少し何かできたんじゃないかなと思います。連続して表彰台には乗ってるんですが、まだ優勝できていないので次の鈴鹿こそ優勝できるように頑張ります。



●ドライバーズコメント：#7 HFDP RACING 森山 冬星



第5戦は自分なりにうまく組み立てて走れましたが、もう少し途中のペースを上げられればトップ争いに絡めたのに、自分のミスが多くて離れてしまいました。第6戦では少し車高をいじったんですが、それがあまりうまく機能しなくて、序盤は第5戦で良かったところが全部消えてしまいピーキーで、かといってストレートで早いわけでもない、レースに強いクルマではなくなってしまいました。アグレッシブさが僕の持ち味なので、このレースウィークでそれを出せたのは良かったですけど、シリーズ後半戦はもっと厳しい戦いになると思うので、そこでも自分の強さを見せてチャンピオン争いをできるよう頑張ります。

